

医学研究センター

医学研究センター

片桐 岳信
(センター長)

1. 構成員

◇センター長

片桐 岳信 (KATAGIRI, Takenobu) : センター長 (任期: R5.7.31)

◇部門長 (医学研究センター運営会議規則第3条2号構成員)

海老原康博 (EBIHARA, Yasuhiro) : 研究主任部門 (任期: R5.3.31)

坂本 安 (SAKAMOTO, Yasushi) : 共同利用施設運営部門 (任期: R5.3.31)

小谷 典弘 (KOTANI, Norihiro) : 研究支援管理部門 (任期: R5.3.31)

三谷幸之介 (MITANI, Kohnosuke) : 安全管理部門 (任期: R5.3.31)

※片桐 岳信 (KATAGIRI, Takenobu) : フェローシップ部門 (任期: R5.3.31)

椎橋実智男 (SHIIBASHI, Michio) : 研究評価部門 (任期: R5.3.31)

◇副部門長 (医学研究センター運営会議規則第3条2号構成員)

百瀬 修二 (MOMOSE, Shuji) : 研究主任部門 (任期: R5.3.31)

下岡 聡行 (SHIMOOKA, Toshiyuki) : 研究主任部門 (任期: R5.3.31)

佐藤 毅 (SATO, Tsuyoshi) : 研究主任部門 (任期: R5.3.31)

※佐藤 毅 (SATO, Tsuyoshi) : 共同利用施設運営部門 (任期: R5.3.31)

堀内 大 (HORIUCHI, Yutaka) (任期: R5.3.31)

※三谷幸之介 (MITANI, Kohnosuke) : 安全管理部門 (DNA 分野) (任期: R5.3.31)

村上 孝 (MURAKAMI, Takashi) : 安全管理部門 (感染分野) (任期: R5.3.31)

奥田 晶彦 (OKUDA, Akihiko) : 安全管理部門 (薬物・廃液等環境分野) (任期: R5.3.31)

森 隆 (MORI, Takashi) : 安全管理部門 (動物分野) (任期: R5.3.31)

西本 正純 (NISHIMOTO, Masazumi) : 安全管理部門 (RI 分野) (任期: R5.3.31)

高田 綾 (TAKADA, Aya) : フェローシップ部門 (任期: R5.3.31)

三輪 尚史 (MIWA, Naofumi) : フェローシップ部門 (任期: R5.3.31)

徳元 康人 (TOKUMOTO, Yasuto) : 研究評価部門 (任期: R5.3.31)

◇ランチ長 (医学研究センター運営会議規則第3条3号構成員)

※坂本 安 (SAKAMOTO, Yasushi) : 毛呂山キャンパス担当 (任期: R5.3.31)

山本 晃士 (YAMAMOTO, Koji) : 総合医療センター担当 (任期: R5.3.31)

※海老原康博 (EBIHARA, Yasuhiro) : 日高キャンパス担当 (任期: R5.3.31)

※下岡 聡行 (SHIMOOKA, Toshiyuki) : 研究主任部門 (任期: R5.3.31)

※は重複構成員…計18名

◇オブザーバー

松下 祥 (MATSUSHITA, Sho) : 副学長

千本松孝明 (SENBONMATSU, Takaaki) : リサーチアドミニストレーションセンター 教授

菅原 哲雄 (SUGAHARA, Tetsuo) : リサーチアドミニストレーションセンター 講師

町田 早苗 (MACHIDA, Sanae) : 医学研究センター 講師

別所 和博 (BESSHO, Kazuhiro) : 医学研究センター 助教

福田枝里子 (FUKUDA, Eriko) : 医学研究センター 助手

◇事務局

下田 裕子 (SHIMODA, Yuko) : 大学事務部 医学部事務室 庶務課 課長

佐國 真紀 (SAKUNI, Maki) : 大学事務部 医学部事務室 庶務課

2. 目的・目標

医学研究センターは、学校法人埼玉医科大学医学研究センター規定第2条に則り、本学の医学研究を円滑かつ効果的に行い、教育研究上の目的を達成するための基盤整備を図るとともに、当該研究活動に必要な企画立案、管理運営その他の研究支援を統括・推進し、もって本学の研究活動の質的向上、および研究成果の社会への還元に資することを目的とする。

今年度も、本学の研究活動の向上を目指して、全学的なソフト面とハード面での支援を充実させる。また、リサーチアドミニストレーションセンターと協力し、公的競争的研究資金として科研費（文部科学省、日本学術振興会）の申請支援も充実させる。

医学研究センターの目的を達成するために、以下に示す6つの部門で構成され、各部門が異なる視点から本学の研究を支援する。

- 1) 研究主任部門：基本学科と医学研究センターの情報共有に関わる。
- 2) 共同利用施設運営部門：各種共同利用施設の運営に関わる。
- 3) 研究支援管理部門：外部資金獲得の支援や学内グラントに関わる。
- 4) 安全管理部門：RI、DNA、薬物、環境、動物、感染など、研究活動における安全管理に関わる。
- 5) フェローシップ部門：大学院生以上助手未満への経済的支援に関わる。
- 6) 研究評価部門：研究活動の内部評価や外部評価に関わる。

各部門内で会議を適宜開催し、毎月1回、全キャンパス両学部から選出された構成員からなる運営会議を開催して医学研究センター全体の活動を共有している。運営会議の内容は教員代表者会議と保健医療学部教授会で報告され、本学全体に共有される。

3. 活動実績

令和4年度は、各部門において以下のような活動を行った（それぞれの詳細は、各部門の活動報告を参照）。

- 1) 研究主任部門：第24回学内グラント成果発表会を令和4年7月15日に開催し、第25回学内グラント成果発表会を令和5年3月24日に開催した。
- 2) 共同利用施設運営部門：共同利用実験室を整備し、令和4年度の利用者登録を管理した。研究機器・備品の整備を行った。中央研究施設運営会議、毛呂山キャンパス動物実験小委員会、を開催した。
- 3) 研究支援管理部門：論文剽窃検知ソフト iThenticate の運用・管理を担当した。グラント選考委員会、および庶務課と協力し、令和4年度学内グラント選考委員会を開催した。リサーチアドミニストレーションセンターと共に、科研費アドバイザー制度を始めとする科研費申請支援を行った。
- 4) 安全管理部門：部門内の5分野でそれぞれ活動を行った。DNA分野では、組換えDNA使用実験に関する審査・承認を行うとともに、講習会を実施した。感染分野は、病原性微生物の保有状況の確認、BSL2、BSL3の保有状況の確認を行い、文部科学省へ報告した。病原体等取扱申請書を審議し、BSL2とBSL3実験施設の査察を行った。薬物・廃液等環境分野では、令和4年度研究用麻薬・向精神薬に関する調査・報告を行うと共に、実験廃液と廃棄物を専門業者に依頼し処分した。動物分野では、各動物実験施設を管理・運営するとともに、各キャンパスの動物実験小委員会と本学動物実験委員会において、動物実験計画書の審査・承認を行った。RI分野では、令和4年度の新規RI取扱希望者を対象とした教育訓練を実施した。
- 5) フェローシップ部門：2023年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金を募集・選考し、その結果を上程した。
- 6) 研究評価部門：研究業績データベースシステムを管理・運用し、学内の各部署への情報提供、新世代研究基盤リサーチマップ（researchmap）とのデータ交換を行った。令和5年5月現在、本システムには医学部と保健医療学部をあわせて1,460名の研究者が登録されている。

4. 自己評価と次年度計画

4-1. 前年度の改善計画に対する今年度の点検・評価結果

令和4年度も、前年の計画通り、本学の研究活動の向上と研究成果の社会への還元を目指して、全学的なソフト面とハード面での研究支援を実施できた。研究支援管理部門が中心となり、リサーチアドミニストレーションセンターと共同で実施した「科研費アドバイザー制度」により、本学の科研費（文部科学省、日本学術振興会）の新規採択率は過去最高であった昨年度をさらに上回った。

4-2. 今年度の自己点検・評価結果に基づく改善計画

来年度も、COVID-19の影響が不透明であるため、各部門で連携しながら適切な対応を検討する。本学の研究活動を促進するために、競争的公的研究費として科研費（文部科学省、日本学術振興会）の申請支援をさらに充実させると共に、学内グラント「一般」枠を「科研費申請支援」枠に改称し、本グラントの目的を明確にする。さらに「科研費申請支援」を充実させるために、科研費アドバイザーによる採点を選考に利用することを計画する。

医学研究センター

研究主任部門

海老原 康博
(部門長)

1. 構成員

部門長 海老原康博 (EBIHARA Yasuhiro) : 国際医療センター中央検査部: 教授 (任期: R7.3.31)
副部門長 下岡聡行 (SHIMOOKA Toshiyuki): 保健医療学部医用生体工学科: 教授 (任期: R7.3.31)
佐藤 毅 (SATO Tsuyoshi) : 大学病院口腔外科: 准教授 (任期: R7.3.31)
百瀬 修二 (MOMOSE Shuji) : 総合医療センター病理部: 教授 (任期: R7.3.31)
部門員 町田早苗 (MACHIDA Sanae) : 医学研究センター: 講師
医学部の全基本学科及び保健医療学部の各学科研究主任

2. 目的・目標

本部門は、埼玉医科大学医学研究センター規程第3条により構成され、第9条に則り、研究現場とセンターの密な連絡を保つための活動を行うこと業務としている。研究主任に対して、基本学科の研究の責任者であると同時に研究費を適正に管理・運用する責任者であることも自覚していただき、適正な運用を推進するよう指導する。研究者向けの情報を発信し、研究主任から各所属部署内での周知徹底を依頼する。学内での共同研究が推進できるよう体制整備に努め、支援活動を行う。学内グラント成果発表会を2回/年開催し、学内の研究推進を図る。

3. 活動実績

(1) 学内グラント受賞者成果発表会の企画・開催

ア 第24回学内グラント受賞者成果発表会

2022年7月15日(金曜日) 17:00~18:50

毛呂山キャンパス第3講堂

総合医療センター 管理棟2階 カンファレンス1 (テレビシステム中継)

国際医療センター 教育研究棟 5階会議L-5-2 (テレビシステム中継)

学内LAN ライブ配信

ビデオ収録配信

発表内容

演題1: 17:05~ 座長: 久保田 寧 (医学部 総合医療センター 輸血部)

百瀬 修二 (医学部 総合医療センター 病理部)

「D型サイクリンを標的とした高悪性度B細胞リンパ腫の分子基盤の解明と臨床応用」

演題2: 17:20~ 座長: 中山 伸朗 (医学部 埼玉医科大学病院 消化器内科・肝臓内科)

中野 貴成 (医学部 生化学)

「NPC1L1を介した腸上皮細胞内コレステロール輸送阻害と脂肪滴形成」

演題3: 17:35~ 座長: 佐藤 弘 (医学部 国際医療センター 消化器外科)

鈴木 啓介 (医学部 埼玉医科大学病院 小児外科)

「先天性食道閉鎖症に対する同所性生体内組織形成術 (Orthotopic iBTA) を用いた一期的食道再生の研究」

演題4: 17:50~ 座長: 浅野 彩 (医学部 埼玉医科大学病院 乳腺腫瘍科)

川崎 朋範 (医学部 国際医療センター 病理診断科)

「Insulinoma-associated protein 1 (INSM1) expression in breast carcinomas with neuroendocrine morphologies: application and future perspectives」

参加人数: 合計91名

毛呂山キャンパス 27名

日高キャンパス 2名

川越キャンパス 4名
ライブ配信視聴者 49名
録画配信視聴者 9名

イ 第25回学内グラント受賞者成果発表会

2023年3月26日(金曜日) 17:00~18:10

毛呂山キャンパス 本部棟 第3講堂

川越キャンパス 管理棟4階 会議室2(テレビシステム中継)

日高キャンパス 教育研究棟2階 会議室1(テレビシステム中継)

学内LANライブ配信

ビデオ収録配信

発表内容

演題1: 17:05~ 座長: 井上 成一郎(医学部 総合医療センター小児外科)

羽藤 泰(医学部 総合医療センター呼吸器外科)

「がん微小環境正常化を伴う強力な免疫療法後に手術を併施する意義の検証」

演題2: 17:20~ 座長: 周防 諭(医学部 薬理学)

水野 由美(中央研究施設 実験動物部門)

「精子形成におけるセルトリ細胞を中心とした細胞間コミュニケーションの解明」

演題3: 17:35~ 座長: 山岸 敏之(保健医療学部臨床検査学科)

鈴木 歩(医学部 基礎医学部門 ゲノム基礎医学)

「Maxは生殖細胞に減数分裂開始能力を与えるか」

演題4: 17:50~ 座長: 梶原 健(医学部 埼玉医科大学病院 産婦人科)

平崎 正孝(医学部 国際医療センター がんゲノム診療科)

「Mbd3によるエピプラスト幹細胞の幹細胞性維持と分化の方向性の決定機構の解明」

参加人数: 合計92名

毛呂山キャンパス 29名

日高キャンパス 4名

川越キャンパス 6名

ライブ配信視聴者 53名

録画配信視聴者 25名

(2) 埼玉医科大学雑誌49巻1号医学研究センター研究主任部門報告

4. 自己評価と次年度計画

4-1. 前年度の改善計画に対する今年度の点検・評価

本年度から、学内グラント受賞者成果発表会の発表者は学内グラント受賞により得た資金を使って、翌年以降に科研費を獲得できた発表者に限って発表を行なっている。内容・形式を改善し、科研費を獲得するために工夫した点も含めた発表にすることで、より多くの参加が得られ、活発な討論を展開できるように対策している。また、新型コロナウイルス感染拡大の対応により、会場での参加に加えて、ライブ配信を取り入れて学内グラント成果発表会に参加しやすい環境を取り入れた。この結果徐々に参加者が増加傾向にあると考えられる。また、毎月行われている医学研究センター運営会議議事録(抜粋)を各研究主任で送付して情報提供を行なっている。

4-2. 今年度の自己点検・評価に基づく改善計画

今後は、全学規模で行われて「オール埼玉医大研究の日」とも連携して、学内グラント受賞者成果発表会により多くの参加が得られるようにさらなる改善を行っていく。

医学研究センター運営会議議事録(抜粋)に限らず、研究主任を通して3キャンパス内で行われている研究の内容を学内研究者に情報提供し、共同研究・研究連携を推進する。

医学研究センター

研究支援管理部門

小谷 典弘
(部門長)

1. 構成員

部門長 小谷典弘 (KOTANI Norihiro) : 医学研究センター 生化学: 教授
副部門長 堀内 大 (HORIUCHI Yutaka) : 医学部 微生物学: 講師
部門員 森 隆 (MORI Takashi) : 総合医療センター 研究部: 教授
前田智也 (MAEDA Tomoya) : 国際医療センター 造血器腫瘍科: 准教授
佐藤 毅 (SATO Tsuyoshi) : 大学病院 歯科・口腔外科: 准教授
駒形英樹 (KOMAGATA Hideki) : 保健医療学部 臨床工学科: 准教授
町田早苗 (MACHIDA Sanae) : 医学研究センター: 講師

2. 目的

研究マインド醸成, 学内グラントの活用, 学外研究費獲得の推進, 研究成果の管理, リサーチアドミニストレーションセンターとの連携による研究倫理推進等により, 学内研究者の研究活動を支援する。

3. 活動報告

1) 学内グラントと研究奨励費の助成

2022年度学内グラント募集では, 丸木記念特別賞5件, 科研費申請支援グラント28件, 計33件の応募があった。分野別の複数の選考委員による予備審査の後, 学内グラント選考委員会が開催され, 丸木記念特別賞1件, 科研費申請支援グラント27件, 計28件の研究テーマが採択された。さらに, 学内グラント採択課題(科研費申請支援グラント)が翌年, 翌々年度に科研費採択(研究テーマが直接関連していることが条件)の場合に対象となる研究奨励費(20万円, 購買経路の使用, 経費報告書必要なし)が計2件助成された。

2) 科学研究費獲得状況の把握

2022年度の科研費申請総数は191件であり, 2021年度の179件に対して増加した。科研費採択結果は, 2021年度の新規採択49件(採択率27.4%), 採択総額252,290千円に対して, 2022年度は新規採択57件(採択率29.8%), 採択総額242,450千円であり, 採択率は去年より高い結果となった。今後も引き続き, 学内グラントや科研費アドバイザー制度等の活用により, 申請総数・率, 採択率, 採択総額のさらなる向上を目指して支援を継続する。

3) 剽窃検知ソフト iThenticate の運用

論文作成では, 意図せず剽窃とならないように注意が必要である。剽窃とは, 他の研究者のアイデア, 情報や成果等を当該研究者の了解もしくは適切な引用なく発表することであり, このような研究不正が発覚すると著者個人だけでなく組織全体に信用失墜等の重大な影響が及ぶ。近年の論文デジタル化とインターネット普及を背景に, 平成25年施行の博士論文オープンアクセス化(公表義務)に伴って現在までに国内の半数近くの医学部を有する大学に導入されている剽窃検知ソフト iThenticate を, 研究マインド支援グラント(共通部門研究費)を用いて, 平成29年度から30年度にかけて試験的に運用を始めた。現在は, リサーチアドミッションセンターからの申請により, 大学経費からの支出で運用されている。なお, 2019年度からは, 大学院学位審査の際の学位論文の提出にあたって, iThenticate による検知を実施することが義務化された。

4) 悪徳雑誌(ハゲタカジャーナル)への対応

著者側が掲載料を支払い読者側は無料アクセスできるオープンアクセス誌が急増しているが, 誤って悪徳雑誌(ハゲタカジャーナル)に投稿しないように注意が必要である(日本医学会から注意喚起の通達が発行され, 日本学術会議において対応策が検討中である)。これに関して, 適宜情報提供を行っている。

5) 科研費アドバイザー制度の運営

2020年度より、科研費採択率の向上を目指し、リサーチアドミニストレーションセンターとの共同で、科研費の全種目を対象とした科研費アドバイザー制度を運用している。2022年度は、科研費審査委員や大型競争的研究資金獲得経験のある研究者を中心とした45名がアドバイザーとして登録され、利用者の研究計画調書を個別に添削した。利用件数は63件で、種目の内訳は若手研究25件、基盤研究(C)33件、基盤研究(B)2件、挑戦的研究(萌芽)1件、研究活動スタート支援2件であった。

さらに、片桐センター長を講師として、「2022年度科研費研究計画調書の書き方に関する講習会」を企画し8月22日に実施した。webinarの内容は限定公開でYouTube配信を行い、その視聴回数は149回であった。受講者アンケートでは、eラーニング・講習会は科研費アドバイザー制度の周知に役立ち、内容は判りやすく役に立ったとの回答を得た。

次年度以降も、より効果的で利用しやすいものを目指して「科研費アドバイザー制度」をブラッシュアップし、本学の科研費採択率向上につなげたい。

医学研究センター

共同利用施設運営部門

坂本 安
(部門長)

1. 構成員

部門長：坂本 安 (SAKAMOTO, Yasushi) : 中央研究施設機能部門：教授 (任期：R5.3.31)
副部門長：佐藤 毅 (SATO, Takeshi) : 歯科・口腔外科：准教授 (任期：R5.3.31)
部門員：一色 政志 (ISSHIKI, Masashi) : 中央研究施設 RI 部門：教授 (任期：R5.3.31)
部門員：椎橋実智男 (SHIBASHI, Michio) : 情報技術支援推進センター：教授 (任期：R5.3.31)
部門員：西本 正純 (NISHIMOTO, Masazumi) : 中央研究施設日高ランチ RI 部門：准教授 (任期：R5.3.31)
部門員：水野 洋介 (MIZUNO, Yousuke) : 中央研究施設形態部門：准教授 (任期：R5.3.31)
部門員：横尾 友隆 (YOKOO, Tomotaka) : 中央研究施設日高ランチ実験動物部門：准教授 (任期：R5.3.31)

2. 目的・目標

本部門は、埼玉医科大学医学研究センター規定第9条(2)に則り、全学的視点で研究体制を整備することを前提に、機器材料等の情報を管理し、主として学内における共同研究を推進することを目的とする。

本年度は、設置希望機器及び既に設置されている機器についてのテクニカルセミナーを開催し、施設を利用する研究者に対して研究機器の啓発することを目標として活動した。

3. 活動実績

【共同利用実験室利用の啓発と整備】

共同利用実験室は、実験室を持たない教員に対し最小限の機器を備えた実験場所を提供し、もって当該教員の研究活動のセットアップに資することを目的として、平成24(2012)年9月10日より運用が開始され、中央研究施設にて機器、設備を整備・管理している。現在、基礎医学棟3階並びにゲノム棟4階に整備されている。それぞれが、12区画の実験ベンチを管理しており、利用申請を行うことができる。またフェローステーションが併設されており、基礎棟に5つのデスク、ゲノム棟には9つのデスクが用意されている。利用者はデータ整理と休息のために使用することができる。

令和4(2022)年度の利用実績は、毛呂山キャンパス：感染症・感染制御科、小児科、腎臓内科、総合診療内科、耳鼻咽喉科麻酔科、薬剤部、アドミッションセンター、医学教育センター、医学研究センター、教養教育、免疫学、微生物学、RI部門、形態部門 計：登録基本講座14、利用登録者人数：23名。

日高キャンパス：リウマチ膠原病科、腎臓内科、微生物学、国際呼吸器内科、脳神経外科、乳腺腫瘍科、がんゲノム医療科、泌尿器腫瘍科、日高ランチ実験動物部門、保健/臨床検査学科、保健/臨床工学科、総合/産婦人科、計：基本講座12、リサーチパーク2社、利用登録者人数：36名。

【中央研究施設共同利用研究機器・設備整備】

令和4年度私学助成金「研究設備整備計画」が採択され、マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型質量分析計 型式：MALDI-8030 令和5(2023)年3月中央研究施設機能部門に設置された。

令和4年度研究マインド支援グラント(共通部門)の採択により、以下の機器が整備され利用が開始された。

- ①令和4(2022)年10月28日 ハムリー株式会社 SmartBox(安楽死システム) TT-8100：中央研究施設実験動物部門
- ②令和4(2022)年12月23日 株式会社日立製作所 3H/14C サーベイメータ TPS-313：中央研究施設 RI 部門
- ③令和4(2022)年10月21日 株式会社ニコン 対物レンズ CFI Plan APO Lambda D 100X oil：中央研究施設形態部門

【テクニカルセミナーの開催】

以下のテクニカルセミナーを開催し、機器の取り扱い及び新しい研究技術を紹介した。

- ①令和4(2022)年5月24日 10:00-17:00 オンライン SH800Z オンライン取扱説明会
- ②令和4(2022)年6月16日 18:00-19:30 オンライン キーエンス 蛍光顕微鏡 BZ-X700 オンラインセミナー

- ③令和4(2022)年7月26日 16:00-17:00 オンライン 「他にはない」横河電機の1細胞ソリューション web セミナー
- ④令和4(2022)年10月5日 13:30-14:30 オンライン 新型共焦点顕微鏡 & 超解像顕微鏡 オンラインセミナー
- ⑤令和4(2022)年10月24日 18:00-19:30 オンライン 「Bio-Rad QX200 AutoDG Droplet Digital PCR システム」セミナー (基礎セミナー編)
- ⑥令和4(2022)年10月25日 10:15-11:15 オンライン 新型共焦点顕微鏡 & 超解像顕微鏡 オンラインセミナー (その2)
- ⑦令和4(2022)年10月25日 13:00-16:00 ゲノム棟 607 共通機器室 「Bio-Rad QX200 AutoDG Droplet Digital PCR システム」セミナー (実機操作説明会編)
- ⑧令和4(2022)年11月11日 14:00-15:00 オンライン 新型共焦点顕微鏡 & 超解像顕微鏡 オンラインセミナー (その3)
- ⑨令和4(2022)年11月16日 16:00-17:00 オンライン/基礎医学棟3階 10x Genomics 社 テクノロジーセミナー
- ⑩令和4(2022)年11月21日 10:00- 13:00- 15:00- (計3回) 基礎医学棟2階 Leica Microhub Mica 共焦点顕微鏡 & 超解像顕微鏡 デモンストレーション
- ⑪令和4(2022)年12月6日 10:00- 13:00- 15:00- (計3回) 基礎医学棟2階 エビデント (オリンパス) FV3000 共焦点顕微鏡 & 超解像顕微鏡 デモンストレーション
- ⑫令和4(2022)年12月9日 15:00-16:00 オンライン 新型共焦点顕微鏡 & 超解像顕微鏡 オンラインセミナー (その4)
- ⑬令和4(2022)年12月13日 10:30- 13:30- 15:30- (計3回) 基礎医学棟2階 Nikon AXR 共焦点顕微鏡 & 超解像顕微鏡 デモンストレーション
- ⑭令和4(2022)年12月22日 10:00- 13:00- 15:00- (計3回) 基礎医学棟2階 Zeiss LSM900Airyscan2 Multiplex 共焦点顕微鏡 & 超解像顕微鏡 デモンストレーション
- ⑮令和5(2023)年1月26日 18:00-18:40 オンライン 「キーエンス 蛍光顕微鏡 BZ-X700」ワンポイントセミナー

【委員会等】

- ①第76回 中央研究施設運営委員会/共同利用施設運営部門合同会議

日時：令和4(2022)年6月2日(木)-6月17日(金) メーリングリスト会議 出席23人

【議題】1. 埼玉医科大学中央研究施設規則の改正に関して

【議事】資料1_6-15 埼玉医科大学医学部中央研究施設規則(案)(改正後全文：総合企画部校閲済み)、埼玉医科大学中央研究施設規則新旧対照表に関して審議した。

(1)-1(副施設長)第6条、(施設長補佐)第7条の追記に関して、坂本施設長より以下の説明がなされた。これらの追記の趣旨は、前回の本会議にて説明した「大学等における研究設備・機器の共用化のためのガイドライン」が文部科学省により提示され、「各機関による共用推進の取組を「機関全体の経営課題」として捉え、共用の取組を担う研究現場担当者がその推進を図る際の手引きとし、また、経営層においても活用されることを目的とする旨掲げられた。これに沿って施設の運営戦略を検討する必要があると判断された。ガイドラインにおける管理体制に関して、外部利用者も利用可能とし、利用料金等による機器の維持、あるいは新規購入機器の支援に充てる等の発想も盛り込まれた。現場としての中心組織となる中央研究施設では、各組織間のパイプ役としての人材が必要不可欠になるとわれ、必要に応じて「副施設長、施設長補佐を置くことができる。」と追記した。

審議の結果追記事項が承認された。また、資料1_6-15 埼玉医科大学医学部中央研究施設規則(案)：第20条の2のタイプミスを修正した。

- ②第77回 中央研究施設運営委員会/共同利用施設運営部門合同会議

日時：令和5(2023)年2月21日(木) 15:00-16:00 場所：Zoom 会議 出席18人 欠席5人

【議題】(1) 医学研究センター共同利用施設運営部門、中央研究施設教員、中央研究施設運営委員会の新体制に関して (2) 中央研究施設に提出されている設置希望機器に関して (3) 令和3年度の中央研究施設の会計に関して (4) 中央研究施設研究機器(利用)予約プログラム試用版に関して (5) その他：研究機器・備品の共用化に関するアンケート調査に関して

【議事】(1) 中央研究施設長の退職に伴い、令和5(2023)年度からの医学研究センター共同利用施設運営部門と中央研究施設運営委員会の委員の体制について説明された。また、中央研究施設長、施設長補佐、各部門の部門長の交代に関して

紹介と新任予定者の挨拶が成された。(2) 中央研究施設設置希望機器リストの中から、島津製作所 MALDI-TOF-MS 8030 が私学助成金に内定した旨報告された。これに伴い、新規設置希望機器リストの更新に関して説明が有り承認された。また、千本松委員（日高ブランチ）より、中古機器の導入に関して意見があり、施設長より今後の検討が必要である旨回答された。更に、三谷委員よりリスト番号に関して質問され、番号は優先順位ではない旨補足された。

(3) 中央研究施設の令和 3（2021）年度の会計報告が行われ、承認された。(4) 中央研究施設研究機器利用予約プログラムの試用版に関して、説明がなされた。令和 5（2023）年度 4 月 1 日からの運用を予定している。(5) 各基本学科で不要となった研究機器・備品の共用化（供出）に関する学内アンケート調査内容に関して、医学研究センター会議の議を経て調査を開始する旨説明された。

4. 自己評価と次年度計画

4-1. 前年度の改善計画に対する今年度の点検・評価

「埼玉医科大学共同利用施設活用の手引き」は、令和 2（2020）年 3 月に初版が発行された。その後、情報が古くなった為に内容を更新し令和 4（2022）年度版を 11 月に再発行をした。活用の手引きは、冊子として各基本講座へ配布されたが、医学研究センターホームページ、共同利用施設運営部門ホームページ、中央研究施設ホームページ（学内・学外）からも閲覧可能とした。今後も情報を更新し、適切な時期に改訂版を発行する。また次年度は、「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン～すべての研究者がいつでもアクセスできる共用システムの構築を目指して～」の策定に基づいた「チーム共用」組織の推進の為に、医学研究センター、共同利用施設運営部門、中央研究施設、RA センター、各事務部門の連携を強化していく。

4-2. 今年度の自己点検・評価に基づく改善計画

今年度は私学助成金 1 件が採択され、中央研究施設に研究機器が設置された。近年、私学助成金申請による研究機器の整備が滞っていたが、本件が採択されたことで次年度の申請へ繋がったものと考えられる。現在、設置されている機器は、購入から 10 年以上経過している機器が多く経年劣化による故障・不具合が多発している。今後、助成金申請の採択に向けて慎重に機器の選定を検討する必要がある。中央研究施設の設置希望機器は原則として共用機器であり、中央研究施設に所属する専任教員により管理、運営がされ、運営委員会も設置されている。これは文部科学省の推進する「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン」に非常に合致している。今後もガイドラインに基づいた運営を強みとして、共用化機器としての私学助成金「設備・装置整備計画」の採択に向け、共同利用施設運営部門、医学研究センター、各事務部門との連携体制を確立していく。

医学研究センター

安全管理部門

三谷 幸之介
(部門長)

1. 部門構成

部門長 三谷幸之介：医学部 ゲノム応用医学 (教授)

感染分野

副部門長 村上 孝：医学部 微生物学 (教授)

部門員 前田卓哉：大学病院 臨床検査医学 (教授)

堀内 大：医学部 微生物学 (講師)

森 隆：総医セ 研究部 (教授)

光武耕太郎：国医セ 感染症・感染制御科 (教授)

佐藤正夫：保医学部 臨床検査学科 (教授)

河村 亨：大学病院 中央検査部 (係長)

池田和博：医学部 ゲノム応用医学 (准教授)

樽本憲人：大学病院 感染症科・感染制御科 (准教授)

薬物・廃液等環境分野

副部門長 奥田晶彦：医学部 ゲノム基礎医学 (教授)

部門員 森 隆：総医セ 研究部 (教授)

三島和彦：国医セ 脳神経外科 (准教授)

野寺 誠：保医学部 健医科学科 (准教授)

淡路健雄：薬理学 (准教授)

西本正純：中央研究施設 RI 部門 (准教授)

齋藤健一：総医セ 薬剤部 (課長)

藤原智徳：保医学部 健医科学科 (教授)

DNA 分野

部門長 三谷幸之介：医学部 ゲノム応用医学 (教授)

副部門長 千本松孝明：RA センター (教授)

村上 孝：医学部 微生物学 (教授)

部門員 小谷典弘：医学研究センター (教授)

森 隆：総医セ 研究部 (教授)

海老原康博：国医セ 臨床検査医学 (教授)

米田竜馬：医学部 ゲノム応用医学 (講師)

脇田政嘉：保医学部 臨床工学科 (講師)

菅原哲雄：RA センター 知財担当 (講師)

荒木靖人：リウマチ膠原病科 (准教授)

百瀬修二：総医セ 病理部 (教授)

動物分野

副部門長 森 隆：総医セ 研究部（教授）
 坂本 安：中央研究施設長（教授）
 小野川 傑：保医学部 臨床検査学科（教授）
 横尾友隆：中央研究施設 実験動物部門 日高ブランチ（准教授）

RI 分野

副部門長 西本正純：中央研究施設 RI 部門（准教授）
 長谷川幸清：国医セ 骨盤腫瘍科（教授）
 熊倉嘉貴：総医セ 画像診断科・核医学科（教授）
 茅野秀一：保医学部 臨床検査学科（教授）

2. 今年度の活動**感染分野**

令和4年度は、病原体等取扱申請書19件（新規申請3件、継続申請16件）、病原体等移動（受入）申請書3件、指定実験室使用申請4件（うち責任者変更1件・BSL3指定実験室1件）が提出された。これらの申請に関して、病原性微生物等管理委員会で審議、修正された後、すべて承認された。R4年度大学院実用実験医学講義（第3回：令和4年5月18日実施にて「バイオセーフティとバイオテロの動向」を堀内委員（微生物学）が教育訓練を兼ねて担当した。また文部科学省から病原性微生物保有状況調査依頼に対応するため、研究主任部門から研究主任宛に各基本学科・部署への調査を実施した。また新型コロナウイルス等のBSL3臨床検体を安全に取り扱える施設がなかったため、今後の新興・再興感染症への研究施設について協議した。毛呂山キャンパス基礎医学棟3F・バイオセーフティー室BSL3区画（微生物学管理下）を運用可能な状態に再整備し、その運用方針を検討した。当面の上記施設運用ではBSL3微生物の培養は行わず、臨床試料（確定診断済み）からの核酸・タンパク質抽出に限定した運用を行うことに制限し、施設利用者希望者にはその都度研究対象に沿った運用マニュアルを病原性微生物等管理委員会に提出し審査・許可する方針とした。

薬物・廃液等環境分野

令和4年度における薬物についての主な活動は、化学物質リスクアセスメントに関する活動である。本学は、労働安全衛生法の改訂に伴って化学リスクアセスメント対象物質が大幅に増えたことを受けて、化学物質の具体的な管理の方法を明示し、かつ、各基本学科において化学物質への暴露が大きいのと思われる一名について化学物質リスクアセスメントを実施するように定めたが、当該分野としては、リサーチアドミニストレーションセンターと協力して、化学物質管理の具体的な方法についての原案作成に携わった。加えて、化学物質管理やリスクアセスメント実施等、本学が策定した計画が、すべての基本学科において滞りなく実施されるように、それらの計画の全学的な周知徹底等に協力した。その他、麻薬・向精神薬を用いた研究についての調査に加えて、当該年度、研究用麻薬免許の更新が必要な研究者に対して更新のためのサポートを行った。廃液等の活動については、当該年度においても、各キャンパスにおける担当事務職員と随時連絡をとり、問題が起きていないことを確認した。

DNA 分野

令和4年度の遺伝子組換え生物等の使用等における審査申請状況は次の通りである。第二種拡散防止措置申請書（承認28件）、内容変更（承認19件）、譲渡届（承認3件）、実験施設申請（承認1件）、教育訓練受講証明書発行（13件）を実施した。また、大学院博士課程共通科目「実用実験医学特別講義」を6月に実施した。

文部科学省からの「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」の遵守の徹底について（文科省研究振興局ライフサイエンス課：4文科振第1308号：令和5年3月8日）について、教員代表者会議にて、医学研究センター長から研究主任に向け注意喚起した。また、適正な管理運営のために「第二種使用等拡散防止措置承認申請書」の様式を変更した。

今後も、審査基準のポイントを明確にすることで、委員会として審査基準のさらなる統一について継続して検討する。

動物分野

学内にて実施される全ての動物実験は、各キャンパスに設置されている動物実験小委員会そして埼玉医科大学の動物実験委員会により動物実験計画書の審査・承認が行われている。令和4年度、各キャンパスから提出された動物実験計画書228件〔注意を要する動物実験計画書：組換えDNA実験（P1A実験：74件、P2A実験：8件）、感染実験（ABSL1実験：4件、

ABSL2 実験：8 件，毒物使用実験：16 件，RI 使用実験：8 件)], 動物実験中間報告書・自己点検票 204 件，動物実験結果報告書・自己点検票 24 件，動物実験計画（変更・追加）承認申請書 40 件，動物実験（終了・中止）報告書 24 件，実験室設置承認申請書 32 件について審査を行い承認した。さらに，随時メール審査を開催し，円滑に動物実験計画書，動物実験計画（変更・追加）承認申請書，実験室設置承認申請書の審査を行い承認した。様式 8 動物実験の自己点検票と様式 9 実験動物飼養保管状況の自己点検票により，令和 4 年度の動物実験そして飼養保管状況の自己点検を行った。遺伝子組換え生物等を使用した動物実験は，組換え DNA 実験安全委員会により第二種使用等拡散防止措置承認申請書の審査・承認が行われた。また，動物実験等に関する情報公開を外部閲覧可能なホームページ (<http://www.saitama-med.ac.jp/medlinks/animal/index.html>) に行った。

RI 分野

RI 部門の管理は，原子力規制委員会に届出放射線取扱主任者である西本正純と日詰光治の 2 名により行われている。法的安全性の確保から，施設の老朽化に伴う設備修理に着手しており，現在も作業は継続中となっている。令和 4 年度の人に対する被曝管理・施設設備の安全点検を含めた法的に義務付けられている監督官庁への報告は無事終了した。令和 4 年度末における利用登録者数は，21 名となっている。施設の有効利用を促進するため，令和 4 年 3 月に講習会を開催した。

医学研究センター

フェローシップ部門

片桐 岳信
(部門長)

1. 構成員

部門長	片桐岳信 (KATAGIRI, Takenobu)	: ゲノム基礎医学: 教授 (任期: R5.3.31)
副部門長	高田 綾 (TAKADA, Aya)	: 法医学: 教授 (任期: R5.3.31)
副部門長	三輪尚史 (MIWA, Naofumi)	: 生理学: 教授 (任期: R5.3.31)
部門員	森 茂久 (MORI, Shigehisa)	: 医学教育センター: 教授 (任期: R5.3.31)
部門員	名越澄子 (NAGOSHI, Sumiko)	: 総合医療センター消化器・肝臓内科: 教授 (任期: R5.3.31)
部門員	淡路健雄 (AWAJI, Takeo)	: 薬理学: 准教授 (任期: R5.3.31)
部門員	小林直樹 (KOBAYASHI, Naoki)	: 保健医療学部・臨床工学科: 教授 (任期: R5.3.31)
部門員	井上 勉 (INOUE, Tsutomu)	: 大学病院腎臓内科: 教授 (任期: R5.3.31)
部門員	栗田浩樹 (KURITA, Hiroki)	: 国際医療センター脳神経外科: 教授 (任期: R5.3.31)

2. 目的・目標

本部門は、学校法人埼玉医科大学医学研究センター規定第9条(4)に則り、大学院医学研究科委員会、および医学教育センターと連携のもと、教員以外の研究者の経済的・身分的支援について協議し答申することを活動の中心とする。本目的のために、大学院、リサーチフェロー、および学外からのフェローシップに関与する。

今年度は、「2022年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」受給者の確認と、「2023年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」の応募と選考、および、その結果を医学研究センター運営会議に上程することを目標として活動した。

3. 活動実績

1) 部門会議

随時、メール会議を開き、迅速に対応した。

(1) 第1回 部門会議 (令和4年4月1日(金)～令和4年4月6日(水): メール会議)

出席9人 欠席0人

オブザーバー (松下副学長, 庶務課)

議事: 「令和3年度 大学年報原稿の確認」について

: 「新部門員の紹介と挨拶」について (議事録有, 運営会議報告)

(2) 第2回 部門会議 (令和4年5月20日(金)～令和4年5月26日(木): メール会議)

出席9人 欠席0人

オブザーバー (松下副学長, 庶務課)

議事: 「令和3年度 大学年報原稿の提出」について

: 「『2023年度 埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金』募集要項の確認」について (議事録有, 運営会議報告)

(3) 第3回 部門会議 (令和4年6月21日(火)～令和4年6月25日(土): メール会議)

出席9人 欠席0人

オブザーバー (松下副学長, 庶務課)

議事: 「『2022年度 埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金』条件付き候補者の入国資格の確認」について (議事録有, 運営会議報告)

(4) 第4回 部門会議 (令和4年11月11日(金)～令和4年11月17日(木): メール会議)

出席9人 欠席0人

オブザーバー (松下副学長, 庶務課)

議事: 「『2023年度 埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金』の応募者」について

：「応募者の選考前資格確認」について

：「応募者の選考」について

：「『2023年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金』の追加公募」について（議事録有，運営会議報告）

(5) 第5回 部門会議（令和4年12月16日（金）～令和4年12月22日（木）：メール会議）

出席9人 欠席0人

オブザーバー（松下副学長，庶務課）

議事：「『2023年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金』の候補者の修正書類の確認」について

：「『2023年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金』の追加募集結果」について（議事録有，運営会議報告）

(6) 第6回 部門会議（令和5年2月21日（火）～令和5年2月24日（金）：メール会議）

出席9人 欠席0人

オブザーバー（松下副学長，庶務課）

議事：「2022年度，および2023年度の部門構成員の確認」について（議事録有，運営会議報告）

2) 埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金の募集・選考について

「2023年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」を令和4年11月1日～10日に募集した。応募者2名（継続外国人2名）の資格確認と選考を行った。応募者1名（新規外国人1名）は，2023年3月に来日予定であり，来日後に在留資格を確認し，本学の「専攻生」として登録することを条件とし，支給資格に該当する（条件付き該当）とした。支給対象者が規定上限の4名に達しないため，令和4年12月1日～12日に追加募集を行ったが，応募者はいなかった。以上の結果について，令和4年12月の医学研究センター運営会議に答申した。

4. 自己評価と次年度計画

4-1. 前年度の改善計画に対する今年度の点検・評価結果

前年度の改善計画に基づき，令和4年度も，「埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」を募集し，厳正・公平な審査を行った。

4-2. 今年度の自己点検・評価結果に基づく改善計画

今年度も，「埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」応募者を厳格に審査し，本奨学金が有効に利用できた。来年度も，引き続きこの体制が維持されるよう，早期に募集の準備を整えて厳格な審査を行う。

医学研究センター

研究評価部門

椎橋 実智男
(部門長)

研究評価部門の現在の主な活動は、本学独自の研究業績データベースシステム（「研究業績プロ」）の運用による、本学の研究業績のデータベース化、および国立研究開発法人科学技術振興機構（JST: Japan Science and Technology Agency）が運用する「データベース型研究者総覧 researchmap」と連携した研究業績の公開、教員の研究と診療の専門性に関するデータベースの運用、人事考課における研究活動実績登録（研究のポイント制）の実施である。これらを通して、本学の研究活動の発展に寄与すべく活動を続けている。以下に、令和4年度の活動状況を報告する。

1 研究業績データベースシステム（「研究業績プロ」）について

1) 概要

「研究業績プロ」は、本学独自の研究業績データベースシステムで、本学の全研究者を対象に研究に関わる情報を蓄積し、学内に公開するシステムである。

<https://mrc-gdd.saitama-med.ac.jp/smsap/P300>

（医学研究センターのホームページからもリンクあり）

令和5年3月現在、医学部と保健医療学部をあわせて1,319名の研究者が登録されている。利用（アクセス）の状況を図1に示す。

2) 運用の状況（令和4年4月から令和5年3月まで）

- 4月 保健医療学部の教員に対する利用説明会の実施
- 5月 中央研究施設を利用した研究成果のデータの提出
- 6月 国際医療センターへの研究業績の提出
- 7月 人事考課のための研究活動実績登録データダウンロード
- 8月 大学病院への研究業績の提出（特定機能病院）

3) researchmap とのデータ交換

researchmap のシステムのバージョンアップに伴い、研究業績データベースシステムを停止することなくデータ交換が可能となったため、令和2年11月より基本的に毎月初旬にデータ交換を実施している。

4) 研究業績データベースシステムのクラウド化

システムの安定的な運用のため、研究業績データベースシステムのサーバーコンピュータをエデュース社のデータセンターに移行し、クラウド化を行った。

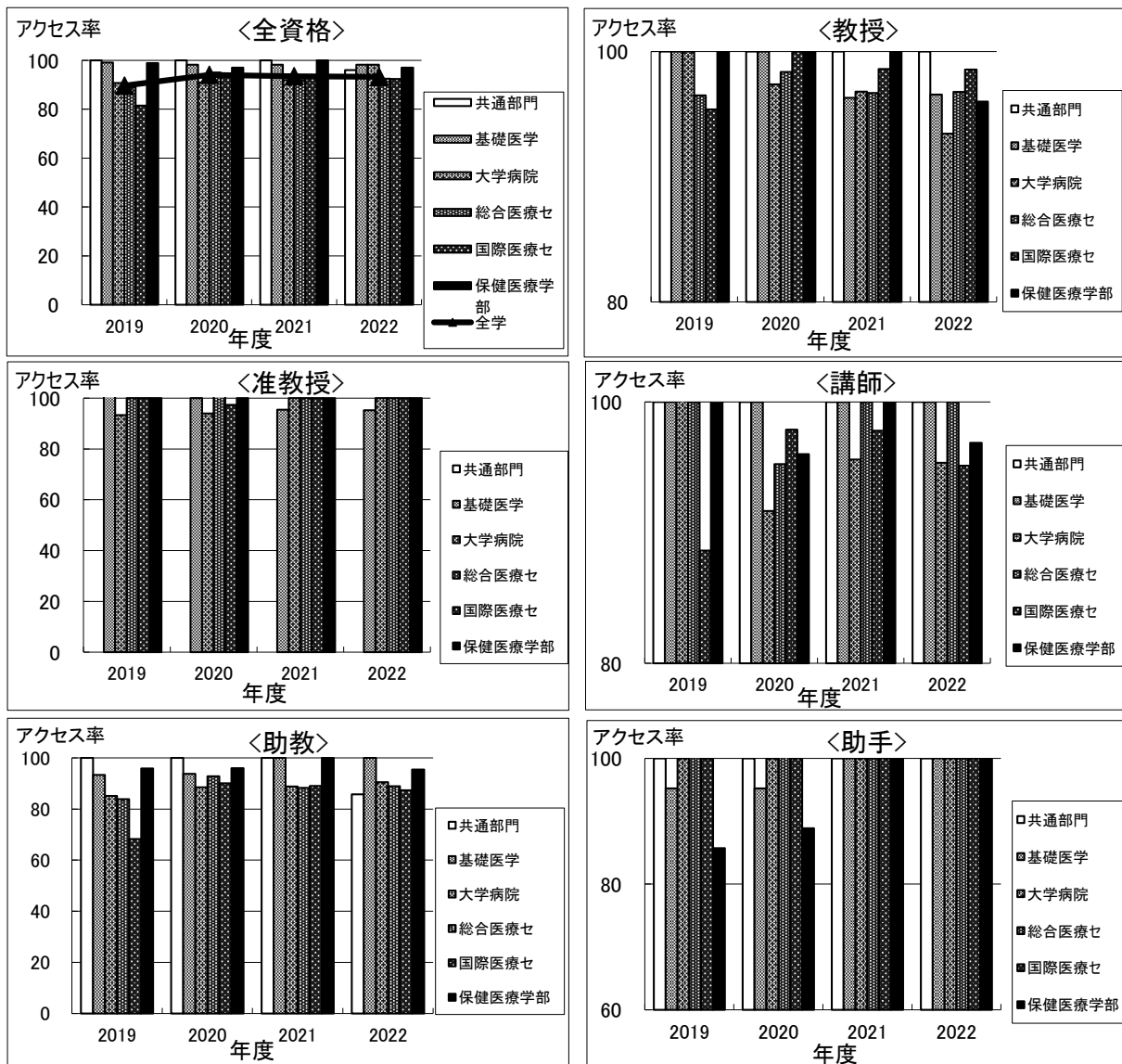
研究業績データベースアクセス数(2022/04~ 2023/03)

	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
共通	8	0	4	6	6	24
基礎医学	28	20	29	17	16	110
大学病院	57	41	41	247	7	393
総合医療センター	60	36	56	265	1	418
国際医療センター	69	30	39	138	1	277
保健医療学部	24	16	31	21	5	97
合計	246	143	200	694	36	1319

研究業績データベースアクセス率

	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
共通	100.0	0.0	100.0	85.7	100.0	96.0
基礎医学	96.6	95.2	100.0	100.0	100.0	98.2
大学病院	93.4	100.0	95.3	90.5	100.0	92.5
総合医療センター	96.8	100.0	100.0	88.9	100	92.3
国際医療センター	98.6	100.0	95.1	87.3	100.0	92.3
保健医療学部	96.0	100.0	96.9	95.5	100.0	97.0
合計	96.5	99.3	97.6	89.5	100.0	93.2

2023-4-1現在



- * 100%を超えているのは、退職後、非常勤になってからもログインした方がいるため
- * かわごえクリニックは総合医療センターに含む
- * 特任教授は教授に、特任准教授は准教授に含む

図 1.